

第6回 SL復元検討委員会 会議要旨

1. 開会

2. あいさつ

○阿部会長

- ・遠くからお越しいただきありがとうございます。
- ・部会においては50人近くの方に関わって審議をして頂いた。
- ・市民説明会も開催して、私が参加した明智では100人近くの参加があり、関心の高さを感じた。
- ・最終会としてとりまとめ、最後は議会に任せようと思う。

3. 報告事項

(1) SL復元検討に関する市民説明会の結果について

○事務局説明・・・資料1

○和仁委員

- ・市民説明会について、私は3度のうち2度出席した。
- ・全体としては、活性化に対する好意的な意見が多かった。
- ・ただし、費用面について懸念する声が多かった。市の負担が増え、市民にしわ寄せがくるのではという意見が聞かれた。
- ・せっかく市内に2基あるSLを活用できる機会のため、地域としても復元を期待したい。
- ・しかし、今後、市民が懸念することを、説明会などを通じて払拭してほしいと思う。また、CO2発生を抑える燃料なども研究を進めてほしい。
- ・また、何か支障が出た場合に、きちんと存続判断できるような検討体制を構築してほしい。

○山田委員

- ・明智自治連合会として出席した。アンケートを取ったら、回答者26名のうち反対はゼロであった。
- ・事業計画の説明はぜひしてほしい。
- ・明智にとって活性化のチャンスである。ぜひチャレンジしてほしいという意見が多かった。
- ・国・県の支持も得てほしいという意見もあった。
- ・一過性のものではなく、継続させて大きな波及効果を生み出したい。

○山本委員

- ・市民説明会は最後の恵那会場に出た。
- ・反対の意見はみかけず、賛成の意見が多かった。ただやはりお金の問題が懸念されていたようだが、市民にとって億単位のお金はイメージが湧かないのかもしれない。説明を増やせば払拭される可能性がある。

(2) 前回までの振り返り及び各部会の開催状況

○事務局説明・・・資料2

○安藤委員

- ・1億5600万円に増えたということだが、これはランニングコストではないか？

○事務局

- ・資料2のP7はランニングコストの誤りである。字句の訂正をお願いする。
(イニシャルコスト→ランニングコスト)

○山田オブザーバー

- ・この1年間検討いただいたわけだが、これまでは主に設備投資や経費を重点的にご検討いただいた。
- ・今後の課題としては「人」である。蒸気機関車は普通の運転免許とは違う。整備士も減っており、全国でSL技術が失われつつあり、継承が難しくなっている。中部運輸局では大井川鐵道があるので、情報入手しやすい環境ではある。
- ・近年では雇用ができなくなりつつある。鉄道は特殊な技術のため、習得に年月がかかる。
- ・鉄道運転士は、鉄道の法令、車両の特徴、運転操作、といった知識が必要である。車両整備についても複雑である。これらの習得は年単位が必要である。来年度以降、検討いただきたい。

○石川アドバイザー

- ・運転士について、私も過去に大井川鐵道で運転をしていた。一般の電車との違いは、体に対する負担である。蒸気機関車は暑い場所で何時間も仕事をする。石炭の粉を吸ってしまうことがあるので、じん肺検査を受ける等健康管理面も気を付けなければいけない。
- ・運転免許を勉強する際、当時は教材がなかった。昭和初期のものばかりで、読んでもよく分からない。その意味ではその支度することからになる。JRも当社も教材をそろえているわけだが、電車・気動車と全く違うので、色々覚える事が多い。周囲の人が教材を提供するなど配慮も重要になってくる。
- ・整備面について私も何年か携わったが、コンピュータを使った測定ができない事が多い。人間が定規をあてて整備したりする。職人気質の人を教育していく事になる。本人が希望しないと全く成長しないが、本気で勉強すれば2年くらいで一人前にもなれる。
- ・運転士・整備士も一人前になれば、ランニングコストにも影響する。簡単な問題は自前で直せるようになれる事が重要だ。

○渡辺委員

- ・人材育成は時間がかかるのはよく分かる。運行開始まで時間があるので、しっかりやっていきたい。
- ・今の社員だけでは不足するので、新たに採用することも必要だ。SL運転体験会・整備体験会をやっているが、SLが好きな人が集まっている。こうした人たちも含めて採用を考えていきたい。
- ・私もJR出身であるため、JR関係にも問いかけて資料を入手したい。

○伊藤委員

- ・整備は大変である。ネジでも一本一本違う。産業遺産でもある。
- ・乗務員・整備士の育成が大変なのは理解する。好きだからできるというわけでもない。

○山本委員

- ・私も鉄友会に入っており、整備風景を身近で見ている。ものすごくアナログな物であり、なにをやっているのかさっぱりわからない部分もある。知識・経験が必要である。

4. 協議事項

(1) SL復元を通じた地域活性化計画(案)について

(2) SL復元の可否について

○事務局説明・・・資料3・4

○商工会議所 安藤委員(代理)

- ・恵那商工会議所では、リニアを活かした活性化について委員会を作っている。今後、この中に SL が含まれれば期待が膨らむ。また、13億円の経済波及効果も期待する。
- ・ただ財源について、整備費用・運営費用について、イニシャルについてはふるさと納税・クラファンは理解できるが、将来に安定的に得られるかは未知数だ。行政からの支援も必要と考える。
- ・休日に運行するとの事だが、生活路線の役割も担うわけだから、公共交通としての視点もしっかり認識してほしい。

○商工会 中垣委員(代理)

- ・SL については、経済団体としては魅力と考えている。これを経済団体として効果を高めることがこの事業のカギだと思っている。事業者だけでなく、官民一体となって積極的に協力したい。
- ・恵那市は人口・商工業者の減少が続いている。新しいビジネス・特産品を作っていきたい。

○下平アドバイザー

- ・鉄道の運行のみならず、観光面など多様な側面を考えておられる。
- ・ぜひ使える補助はしっかり使ってほしい。

○岐阜県 清水オブザーバー

- ・市民から反対意見は無く、期待の声が大きいという話を理解した。
- ・私も先日、明知鉄道90周年ということで恵那市に来たが、その際にたくさんの人がいた。SL 見学会にもたくさんの人がいた。
- ・実現に向かってチャレンジすることが大事だ。一方で人材、CO2、お金の問題がある。補助金やクラファンなど、どうやって効果的に得ていくか。
- ・SL の復元・運行はどうしてもコストがかかる。ただ道路や公園も投資として考えるわけで、人を呼び込むには投資が必要だ。私は都市公園課長をしていたが、大規模投資した公園がいくるかあり、基本的に無料である。多くの人に来てお金を地域に落とす機会になり、知名度アップにつな

がる。コストを悪と考えるのではなく、良いものを作るうえでコストを考えてほしい。

○竹内アドバイザー

- ・ 6回の会議で夢を形にして頂いた皆様に感謝申し上げる。
- ・ お金の部分で不安感があるとのことだったが、具体的な数字を見せることで、SLを活用した企業活動も出てくると思う。
- ・ 企業が赤字の年はふるさと納税が出せないかもしれないので、その辺りも検討されると良い。
- ・ 「高付加価値」も具体化する。「0to0」という言葉がある。オンラインで知ること、オフラインに足を運ぶという事だ。きちんと見せていく事で賛同していく企業も出てくると思う。

○審議

○委員全員の挙手にて承認

5. その他

○事務局

- ・ 市民への説明という話があった。
- ・ この結果を、年明けにでも周知（報告会）の機会を作りたいと思う。

○事務局

- ・ 承認が得られたため、引き続き、この検討会を続けていきたい。
- ・ 構成員は、現在の構成員をベースとするが今後検討したい。
- ・ 検討委員会の中で SL 推進組織の立ち上げを検討していきたい。現在はまだ抽象的であるため、今後検討を進めていきたい。

○和仁委員

- ・ 今日の会議で出てきた懸念事項を払拭していきながら、推進していったほしい。

○安藤委員（代理）

- ・ 検討委員会のとりまとめ、市長への具申について、その書類などの調整は委員長一任なのか。

○事務局

- ・ 会長一任とさせて頂ければと思う。

○安藤委員（代理）

- ・ 承知した。

○閉会